

1 「バル」の開催

(1) 第1回連携会議で示された取組の方向性

- ・「バル」の開催により、住民同士や議員、村職員との関係性の構築ができています。
- ・バルの場を活用し、例えば飲食を始める前に、短時間、村政のトピック等の情報を提供し、参加者と議論する時間を設ける。

(2) 開催実績等（第1回連携会議以降）

H30.6.15（金） 18:00～21:00 集落活動センター結いの里 参加者49名

H30.10.12（金） 18:30～21:00 集落活動センター結いの里 参加者約70名

（開催前に政策議論（貨客混載等）の場を設置した。詳細は次頁参照）

次回は、H30.12.21（金）開催。定期的に開催予定

(3) 第1回連携会議以降の取組（飲食開始前の情報提供等）

- ・地域おこし協力隊、緑のふるさと協力隊、集落活動センタースタッフの村民へのPR
- ・バルの今後の継続に向けた協力依頼や意見の募集

(4) バルにおける議論の内容

- ・結いの里の活性化（物販）のため加工品などを開発する必要性について
- ・はちきん地鶏のフレッシュを活用したメニュー開発について
- ・山荘梶ヶ森と連携した星空観察の取組について ・青年団に未加入の青年はぜひ加入を
- ・大川村の文化・芸術に触れる機会があると良い 等

(5) 取組の成果

- ・飲食開始前に村政のトピックを情報提供することで、飲食の場においても、参加者が産業振興や観光振興分野をはじめ、村政に関する意見を出しやすくなったものと考えられ、以前よりも村政に関する議論が多く交わされるようになったように感じられる。
- ・今回、行政、社会福祉協議会、集落活動センターが共同で開催し、住民の意見や考えを一緒に聞くことで共有化が図られた。
- ・それまで集落活動センターを利用したことがなかった住民が来てくれるようになるなど、集落活動センターが住民同士の関係を深める役割を果たすことにつながっている。

(6) 今後の取組の方向性

- ・引き続き、バルの場を活用し意見交換するとともに、飲食を始める前に参加者と議論する内容について、充実を図る。

住民を巻き込んだ政策議論の場の設置

2 住民との懇談会の開催

(1) 第1回連携会議で示された取組の方向性

- ・バルは飲食をする場であることから、十分な政策議論を行うためには限界がある。
- ・土佐町が実施中の町政懇談会を参考に、住民との政策議論の場を設ける。

(2) 今年度のこれまでの取組

会議名・時期	住民との懇談会（貨客混載等について）	村勢フォーラム（村民総会問題と合区問題を考える）
実施主体	執行部	執行部
参加者	村民全員（子供も含む）を対象に、約70名が参加	村民全員（子供も含む）を対象に、約50名が参加
場所	結いの里	山村開発センター
日時	10月12日（金） 17:30～18:30	9月29日（土） 13:00～16:00
進行	①村からの説明、話題提供 ②①の内容を踏まえて意見交換、質疑 (村民の率直な意見を聞く機会であることを念頭にファシリテーターが進行)	①高知県選出の国会議員による講演等（合区選挙について） ②村長、議長による村民総会についての説明 ③国会議員、村長、村議会議員によるパネルディスカッション
主な意見	・コミュニティバスや軽トラでの荷物運搬の便利な仕組みができれば助かる。 ・農家が冬場で農作業があまり忙しくないときにアルバイト感覚で輸送の手伝いができれば双方にメリットがある 等	・村の自治を考える上で、議会や行政の取組を勉強する機会が必要。そうした機会があれば参加したい。

(3) 取組の成果

- ・村の情報発信の充実や政策議論の場の設置等の影響もあってか、村の振興計画等の勉強会を独自に始めたグループがある。議会維持の議論を契機に独自に自治を考える村民の意識改革は一定進んでいるのではないかとと思われる。
- ・村民からは、人任せに考えるのではなく、自分にもできることがある、やってみたいなどの前向きな意見もあり、概ね好評であった。

(3) 今後の方向性

- ・今後も、福祉のつどいの場や各種団体との意見交換会の場など様々な機会を捉えて、政策議論の場を設置していきたい。